

## 事業再評価シート

事業名	土地利用一体型水防災事業		
箇所名	一級河川五ヶ瀬川水系五ヶ瀬川	市町村名	延岡市

(上段は前回、下段は今回)

実施方法	補助 交付金 県単		
事業期間	採択年度	再評価年度	完了予定年度
	H12	H21	H26
		H26	H29
事業進捗	全体事業費 (百万円)	既投資額 (百万円)	進捗率(%)
			事業費      用地
	9,083	6,040	66.5      63.1
	9,982	9,252	92.7      98.0
再評価の概要	対象選定理由		事業効果(B/C)
	事業採択後10年経過		- (1.34)
	再評価後5年経過		- (1.03)
			対応方針原案
			継続
			継続

全体計画
<p>五ヶ瀬川では、平成5年に浸水家屋数397戸、平成9年に浸水家屋数180戸の甚大な浸水被害が発生した。</p> <p>このため、五ヶ瀬川の岩熊井堰から川水流橋までの10.5km区間、及び支川細見川の下流端から2.08kmの区間、曾木川の下流端から2.70kmの区間において、平成12年から土地利用一体型水防災事業に着手している。</p> <p>五ヶ瀬川水系河川整備基本方針   ：平成16年1月26日策定                      五ヶ瀬川水系五ヶ瀬川圏域河川整備計画(県管理区間)：平成22年1月19日策定                      五ヶ瀬川水系河川整備計画(国管理区間)   ：平成20年2月8日策定</p>

事業概要																		
<p>国管理区間の上流端である岩熊井堰から川水流橋の区間について、輪中堤、宅地嵩上げを実施し、浸水被害の軽減を図る。</p>																		
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">事業延長</td> <td style="width: 35%;">五ヶ瀬川本川   L = 10.5 km</td> <td rowspan="3" style="width: 10%; font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> <td style="width: 15%;">全体地区数</td> <td style="width: 25%;">14地区</td> </tr> <tr> <td></td> <td>細見川       L = 2.08 km</td> <td>(輪中堤)</td> <td>5地区)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>曾木川       L = 2.70 km</td> <td>(宅地嵩上)</td> <td>7地区)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(輪中堤・宅地嵩上)</td> <td>2地区)</td> </tr> </table>	事業延長	五ヶ瀬川本川   L = 10.5 km	}	全体地区数	14地区		細見川       L = 2.08 km	(輪中堤)	5地区)		曾木川       L = 2.70 km	(宅地嵩上)	7地区)				(輪中堤・宅地嵩上)	2地区)
事業延長	五ヶ瀬川本川   L = 10.5 km	}		全体地区数	14地区													
	細見川       L = 2.08 km			(輪中堤)	5地区)													
	曾木川       L = 2.70 km		(宅地嵩上)	7地区)														
			(輪中堤・宅地嵩上)	2地区)														
総事業費	9,982百万円																	
改修規模	6,500m <sup>3</sup> /s：三輪基準点 (概ね50年に1回程度発生する洪水規模)																	
事業内容	輪中堤、宅地嵩上げの整備等																	

## 事業目的

### 対象事業の目的、必要性

五ヶ瀬川では、平成5年、平成9年に甚大な浸水被害が発生したことから、五ヶ瀬川中流域の地形や土地利用状況を考慮し、土地利用一体型水防災事業を採用し、浸水被害への対応を進めている。

流域住民からは早期な治水対策の要望が強く、治水安全度を早期に向上させる必要がある。

### 計画での位置付け

五ヶ瀬川の改修計画は、平成15年3月27日に策定した五ヶ瀬川水系五ヶ瀬川圏域河川整備計画に位置づけられている。

### 他事業との関連性・事業による効果

五ヶ瀬川下流の国管理区間においては、既に激特事業により対応がなされ、五ヶ瀬川流域の浸水被害の軽減を進めている。

### 事業を継続する必要性

これまでに輪中堤や宅地嵩上げを実施しているが、依然として未整備箇所において浸水被害が発生しており、引き続き事業を実施する必要がある。

## 事業の進捗状況

### 現在の事業進捗、整備効果の発現状況

平成21年度迄に、櫻谷・笠下・下崎・桑水流・小川・柳瀬地区について、整備が完了しており、その後、平成26年度までに貝の畑・中三輪・鹿越・角田・下曾木地区の整備が完了し、事業効果が発揮されている。

### 今後の事業進捗の見込み

現在、細見・岡元・川水流地区において、輪中堤や宅地嵩上げを実施しており、引き続き未整備地区の工事進捗を図っていく。

## 社会情勢等の変化

### 事業を取り巻く社会情勢等の変化

平成18年2月に旧延岡市と北方町、北浦町と、平成19年3月に北川町と合併し、新延岡市となり、流域における防災施策を一体的に進める環境が向上している。

一方、延岡市の高齢化率は30.3%(H26.10月)であり年々増加していることから、台風時等における災害弱者の増加が懸念される。

### 災害等の発生状況

平成5年 8月(台風7号)	床上浸水353戸、床下浸水44戸
平成9年 9月(台風19号)	床上浸水 89戸、床下浸水91戸
平成16年 8月(台風16号)	床上浸水 63戸、床下浸水48戸
平成17年 9月(台風14号)	床上浸水343戸、床下浸水47戸

### 環境保全に対する取り組み

本事業の輪中堤実施箇所では、土堤を基本とし、用地的な制約がある箇所もブロックに覆土を実施するなど植生の回復に努めている。

#### 事業効果の分析

##### 費用対効果

費用対効果は、1.03である。

##### 事業を継続することの事業効果分析

未整備区間の整備を進めることにより、浸水被害を解消し、安全で安心な暮らしが確保される。

また、用地補償もほぼ完了し、既に計画の90%以上の整備がなされ、今後3ヶ年で事業計画の完成が見込まれる。

#### コスト縮減

輪中堤及び宅地嵩上げ工事に使用する土砂について、管内の他事業（堆積土砂除去、道路工事等）からの発生土砂を流用することで、コスト縮減を図っている。

今後も、他事業との連携を図りながら更なるコスト縮減に努めていく。

#### 代替案の可能性

現在の事業区間は、地形的に集落が点在している区間であるため、現事業手法が早期に治水対策を図れること、及び事業区間内の各地区において事業着手しほぼ用地補償も完了していることから、輪中堤と宅地嵩上げによる整備が最適と考えられる。

#### 対応方針

継続

# 五ヶ瀬川 土地利用一体型水防災事業 位置図

